



Title	KURENAIが経験してきたこと：リポジトリ事業の苦労とやりがい
Author(s)	大西, 賢人
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/14180
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



KURENAIが経験してきたこと リポジトリ事業の苦労とやりがい

京都大学附属図書館

情報管理課 電子情報掛 大西 賢人

2009.1.20(火) 於: 大阪大学コンベンションセンター会議室2



目次

* KURENAIの紹介

* リポジトリ事業の苦労

- 紀要の登録
- 学位論文の登録

* リポジトリ事業のやりがい

- コンテンツ提供者からの感謝と激励
- コンテンツの可視性向上

* 今後の課題



リポジトリ検索

検索

詳細検索

④ ホーム

ブラウズ

④ コミュニティ
& コレクション

④ タイトル

④ 著者

④ 主題

④ 日付

④ 良く読まれている文献

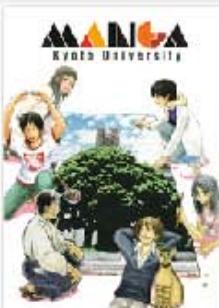
④ ヘルプ

④ DSpaceについて

Kyoto University Research Information Repository >

京都大学学術情報リポジトリ

「京都大学学術情報リポジトリ」は京都大学内で生産された電子的な知的生産物(学術雑誌掲載論文, 学位論文, プレプリント, 科学研究費報告書, COEプログラム研究成果, 講義資料・教材, 学会発表資料などの学術情報)を永続的に蓄積し, 誰もが無料で読めるようにWeb上で公開するものです。

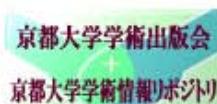
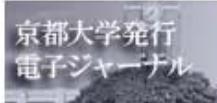


- 2008.12.11 京大リポジトリで『西洋古典論集』を公開
- 2008.12.05 京大リポジトリで『教育行政論叢』(10)/『京都大学生涯教育学・図書館情報学研究』(7)/『Lifelong education and libraries』(8)を公開
- 2008.12.01 京大リポジトリで『African Study Monographs』『African Study Monographs, Supplementary Issue.』を公開
- 2008.11.18 京大リポジトリで『東方學報』を公開
- 2008.11.14 京大リポジトリで『言語科学論集』を公開
- 2008.11.10 京大リポジトリで『経済論叢』175(1)-177(2)を公開
- 2008.11.05 京大リポジトリの取り組みが京都新聞・毎日新聞で紹介されました
[過去のお知らせ](#)

このリポジトリのコミュニティ

コレクションを閲覧するコミュニティを選択してください。

- [001 総長 = Presidents of Kyoto University](#)
- [002 学位論文 = Thesis or Dissertation](#)
- [004 iPS細胞研究センター = Center for iPS Cell Research and Application](#)
- [005 京都大学学術出版会 = Kyoto University Press](#)
- [007 京都大学に基盤のある学会・研究会 = Related Academic Societies](#)
- [008 日本動物学会 = Zoological Society of Japan](#)
- [010 文学研究科・文学部 = Graduate School of Letters](#)
- [020 教育学研究科・教育学部 = Graduate School of Education](#)



京都大学学術情報リポジトリ総合案内サイト(登録の方法など)

京都大学学術情報リポジトリについて(工学研究科附属情報センターニュース第7号)

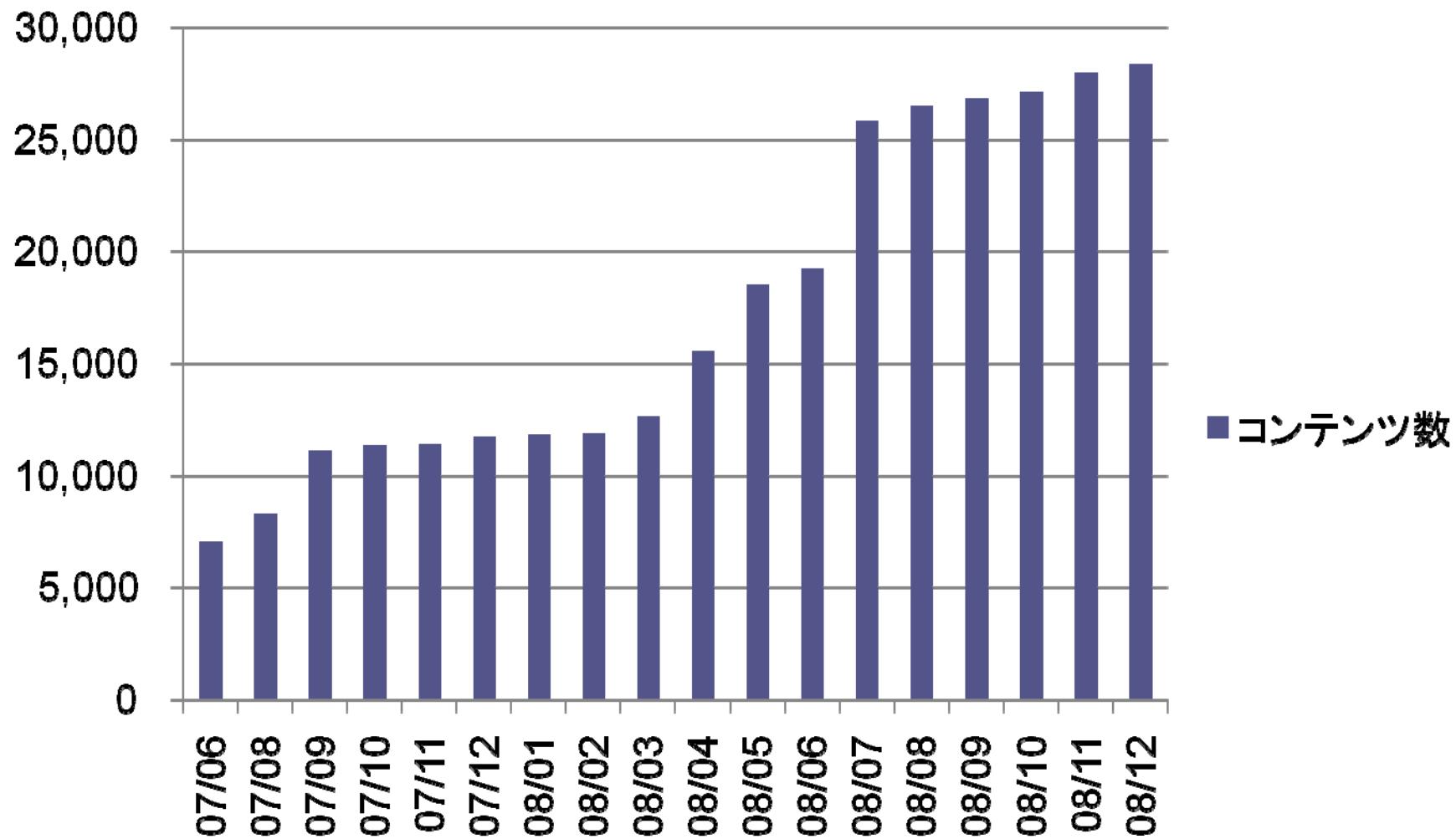
京都大学学術情報リポジトリのコンテンツ(工学研究科附属情報センターニュース第11号)

DSpaceに関する技術的なメモ





KURENAI紹介 - コンテンツ統計



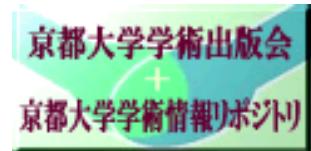


KURENAI紹介 – 特色ある活動

KURENAI 2008

▶ 2008.2 京都大学学術出版会との連携

- 京都大学学術出版会の研究書を公開
- 図書館と出版社との新しいコミュニケーションの場に



▶ 2008.2 ヒトiPS細胞樹立論文公開



- 山中伸弥教授(物質-細胞統合システム拠点/再生医科学研究所)らの研究グループがヒト人工多能性幹細胞(iPS細胞)の樹立に成功(2007/11/20)

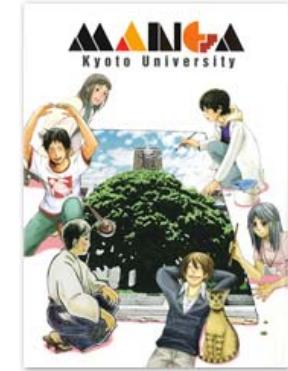


KURENAI紹介 – 特色ある活動

KURENAI 2008

▶ 2008.10 MANGA Kyoto University公開

- マンガによる京都大学紹介冊子
- 京都大学・京都精華大学共同プロジェクト



▶ 2008.10 小林・益川ノーベル物理学賞受賞論文公開

- 益川敏英京都大学名誉教授(元基礎物理学研究所所長)がノーベル物理学賞を受賞(2008/10/7)
- “Progress of Theoretical Physics”編集委員会より特別に許諾を得て登録・公開(2008/10/9)





リポジトリ事業の苦労

KURENAI が経験してきたこと

* 紀要の登録

- 京大発行の60以上の紀要の登録

* 学位論文の登録

- 学位論文の制度化と過去分の遡及登録



紀要の登録

1. 紀要発行元への打診・打ち合わせ
2. 覚書締結
- 3. 著作権処理**
- 4. 電子化**
5. KURENAIに登録・公開
 - 1.については紀要発行元から要望がある場合も



著作権処理作業

- * 紀要の発行元が著作権(電子化・公開)に関する「複製権」「公衆送信権」を著者から譲渡してもらうか、または、権利の行使を委託してもらっていない場合
⇒ 著作権処理が必要

- * 投稿規程に上記に関して記載あり
⇒ 著作権処理は不要
 - 但し、規程に明記されたのはいつからかが重要!
 - バックナンバーを電子化する際には注意



著作権処理作業の苦労

* 著者に著作権について確認したいが…

- 著者が多数いる
- 著者が学内者ではない場合がある
- 著者の連絡先が不明な人が多い

⇒ 著者の連絡先調査に苦労



著作権処理作業 – 業者発注

経済学部の紀要の場合

- * 経済学部3誌: 総著者数297名(論文数631本)
 - 経済論叢 145(1990)-178(2006)
 - 経済論叢. 別冊.調査と研究 1(1991)-32(2006)
 - Kyoto University Economic Review 63(1993)-72(2003)
- * 連絡先調査から許諾依頼状の発送・整理まで発注

経済論叢	経済論叢別冊 調査と研究	THE KYOTO UNIVERSITY ECONOMIC REVIEW
依頼状送付	240名	
許諾書返送	157名(65%)	
許諾○	157名(65%)	
許諾×	0名(0%)	
未回答	83名(35%)	



著作権処理作業 – 業者発注

人文科学研究所の紀要の場合

- * 人文研2誌: 総著者数156名
(論文数252本)

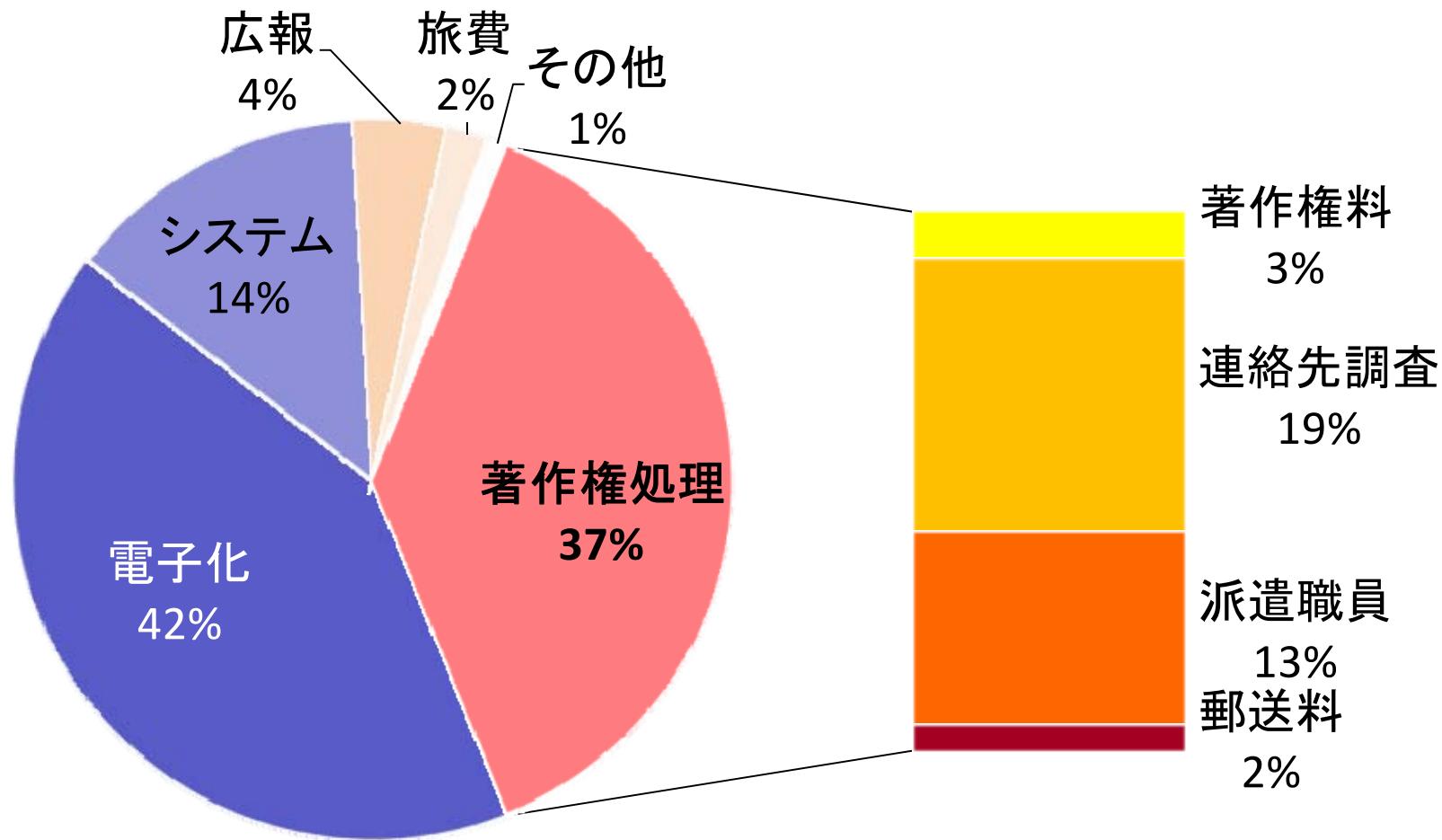
- ▶ 人文学報 66(1990)-93(2006)
- ▶ ZINBUN 25(1990)-38(2006)

- * 連絡先調査から許諾依頼状の発送・整理まで発注

依頼状送付	140名
許諾書返送	93名(66%)
許諾○	91名(65%)
許諾×	2名(1%)
未回答	47名(33%)



H19年度構築経費と著作権処理費用





著作権処理作業

* メリット

- 許諾依頼状を送付すれば、7割程度の回答・許諾が得られる

* デメリット

- 連絡先調査には多大な時間と労力・コストがかかる

⇒ 研究科や発行元と協力して連絡先調査をおこなうのが効率的



著作権処理作業 – 研究科と共同で

教育学部の紀要の場合

- * 教育学部1誌: 総著者数156名(論文数241本)
 - ▶ 京都大学教育学研究科紀要 45(1999)-51(2005)
- * 連絡先調査(研究科), 許諾依頼状の発送・整理(図書館)で共同作業

依頼状送付	150名 233本
許諾書返送	116名(77%) 184本(79%)
許諾○	115名(76%) 182本(78%)
許諾×	2名(1%) 2本(1%)
未回答	34名(23%) 49本(21%)



著作権処理作業 – 研究所と共同で

人文科学研究所の紀要の場合

- * 人文研1誌: 総著者数142名
(論文数378本)
 - ▶ 東方学報 41(1970)-79(2006)
- * 連絡先調査(研究所, 図書館), 許諾依頼状の発送・整理(図書館)で共同作業

依頼状送付	102名
許諾書返送	81名(79%)
許諾○	81名(79%) 274本
許諾×	0名(0%)
未回答	21名(21%)



電子化作業

* 紀要のバックナンバーの電子化

- 大量の論文を効率的に電子化
⇒ 業者に発注

* 紀要のカレントの電子化

- 少量の論文をできるだけ迅速に電子化
⇒ 自分で電子化 or PDFをもらう



電子化作業の苦労

* 業者に発注するにしても…

- どのような仕様をかけばよいのか
- どれくらい費用がかかるのか

* 自分で電子化とはいっても…

- どのような設備があればできるのか



電子化作業 – バックナンバー

* 電子化仕様にかいてること

- 白黒二値か, グレーか, カラーか
- 解像度 (京大は300dpi相当)
- 傾き補正
- OCR処理・透明テキスト付PDF作成
- メタデータフォーマット (目次を作成する場合)

参考： 国立国会図書館資料デジタル化の手引き

<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/digitalguide.html>



電子化作業 – バックナンバー

* 電子化費用は仕様と業者によって変化

- 白黒, グレー, カラーの単価
- 裁断可能, 裁断不可の単価
- メタデータ作成単価

⇒ 複数の業者から見積もりをとったほうがよい



電子化作業 – カレント

* 自分で電子化するのに使用しているもの

- 裁断機 (なければカッターでも可)
- 紙送り機能がついたスキャナー (京大はPDF出力できる複合機)
- OCRソフト (Acrobat Professional 8, e-Typist)

* 発行元から製本前のものをもらう

* 最終的には発行元からPDFでもらえるように交渉すること!!

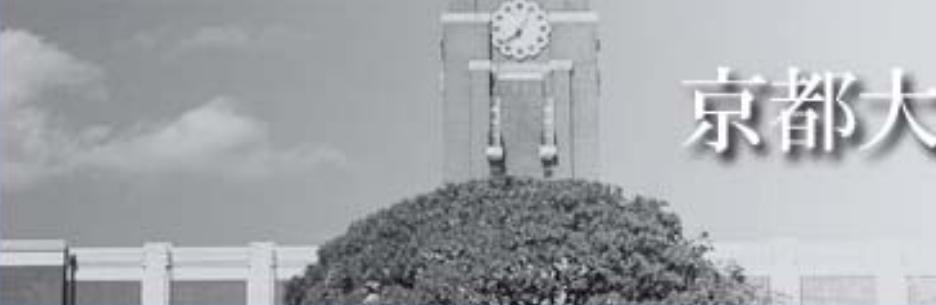


NIIの紀要電子化事業

* NIIによる研究紀要の電子化

- ▶ 「学術雑誌公開支援事業」の一環として、各機関が刊行する研究紀要を電子化する事業が**今年度受付分で終了**

□国情研コ第 51 号 平成20 年7 月8 日
「国立情報学研究所が電子化する研究紀要に関する調査について(依頼)」
http://www.nii.ac.jp/nels/archive/2008/pdf/denshika_h20.pdf



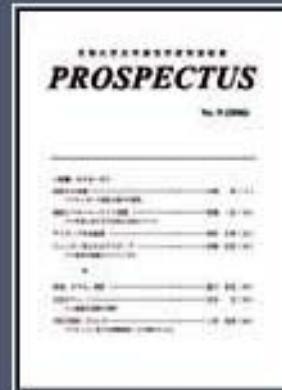
京都大学発行電子ジャーナル

powered by KURENAI

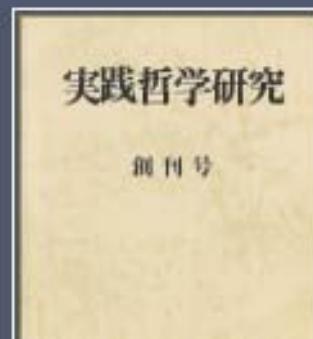
文学研究科



哲学論叢

Prospectus : 京都大学
大学院文学研究科哲学
研究室紀要

科学哲学科学史研究



各部局電子ジャーナル

- 文学研究科
- 教育学研究科
- 経済学研究科
- 理学研究科
- 医学研究科・医学部・医療技術短期大学部
- 工学研究科・工学部
- 農学研究科・農学部
- 人間・環境学研究科・総合人間学部
- 情報学研究科
- 人文科学研究所
- 再生医科学研究所
- 生存圏研究所
- 数理解析研究所
- 東南アジア研究所

リポジトリ検索

 検索[詳細検索](#)[ホーム](#)

ブラウズ

[コミュニティ
&コレクション](#)[タイトル](#)[著者](#)[主題](#)[日付](#)[良く読まれている文献](#)[ヘルプ](#)[DSpaceについて](#)

Kyoto University Research Information Repository >

科学哲学科学史研究



科学哲学科学史研究

PHS studies

発行: 京都大学文学部科学哲学科学史研究室

[Current Issue](#)[Back Issues](#) Search

第2号 (2008-01)

<特集:モデル> 条件法論理に基づく情報更新の論理

佐野, 勝彦

p.1 -15

<特集:モデル> ウィーナーの「サイバネティクス」構想の変遷 : 1942年から1945年の状況

杉本, 舞

p.17 -28

<特集:モデル> 進化生物学におけるモデルと多元論

田中, 泉吏

p.29 -42



学位論文の登録

* 学位論文の登録

- 学位論文の制度化(登録・申請手続の制度化)
- 過去の学位論文の許諾確認作業・登録作業



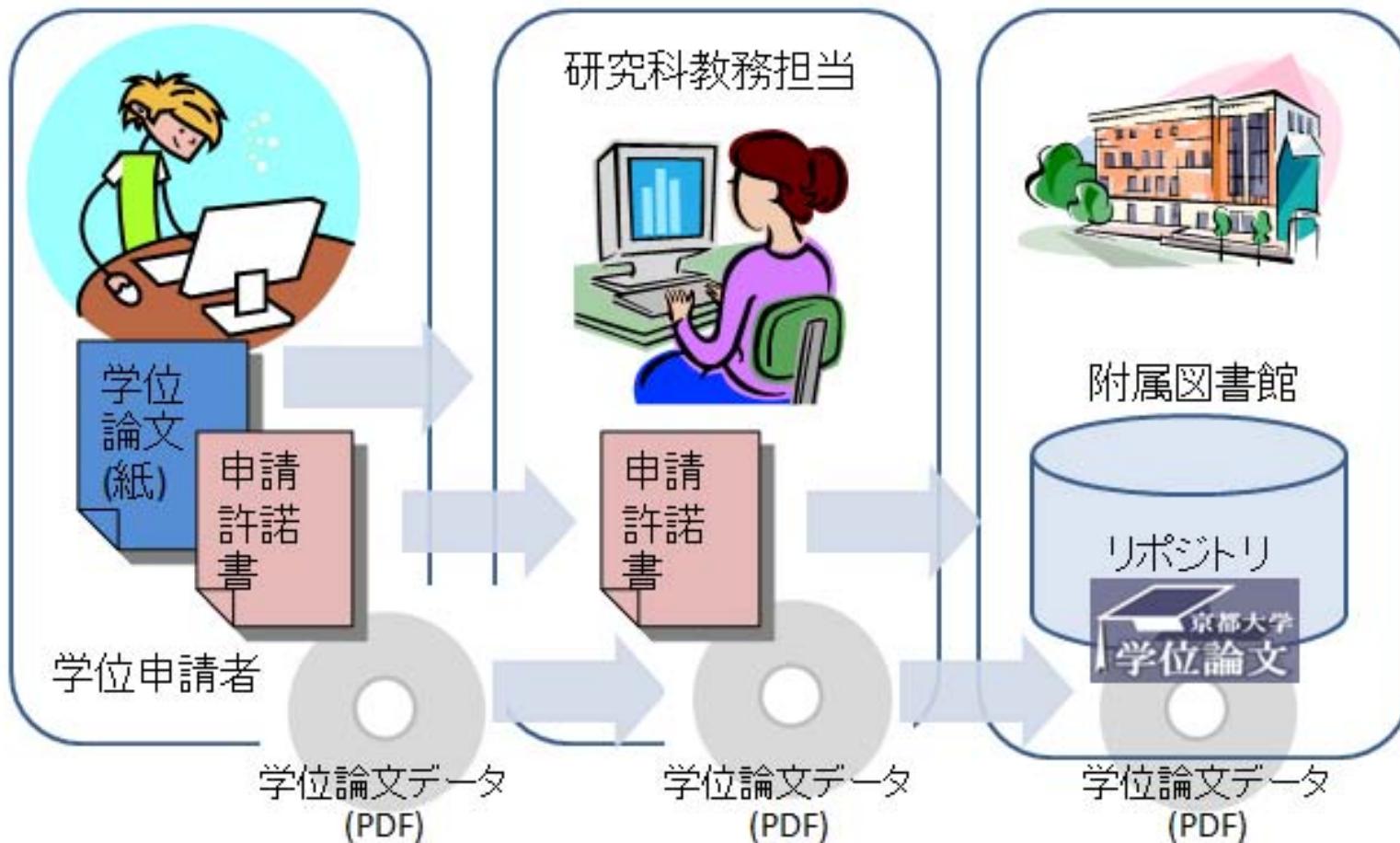
学位論文の制度化

- * 学位論文がなかなか集まらない
 - * 図書館側からみた学位申請者の特徴
 - 修了時期がわかりにくい
 - 連絡先が不明になりやすい
 - 論文博士(社会人学生)
- **通常の学位論文申請手続**のなかで学位申請者がKURENAIへの登録許諾をおこなえるような制度づくりが必要



学位論文の制度化

学位論文のリポジトリ登録の流れ





学位論文の制度化 – 課題

- * H19.4月より工学研究科で制度化
- * 現在その他の各研究科と交渉中
- * 交渉の過程で顕在化してきた問題点
 - 学位論文をのちのち出版予定
 - 学位論文の一部または全てが雑誌掲載論文



学位論文(過去分) – 許諾確認作業

* 過去の学位論文の許諾確認作業

1. 博士学位論文DBより学位取得者リスト作成
2. 学位取得者約**35,000**名の連絡先調査
3. 連絡先の判明した**3,373**名(学内教員, 名誉教授, 学外教員)に登録許諾依頼状を送付
4. 約**1,300**名より許諾回答あり



学位論文(過去分) – 発注準備作業

* 過去の学位論文の電子化発注準備作業

1. 許諾が得られた論文を探す
2. 出版物のみで構成される論文を除外
3. 上記以外の論文を別置
4. 書架延長によりページ概数の算出
5. 複数業者に見積もり



学位論文(過去分) – 登録作業

* 過去の学位論文の登録作業

1. 戻ってきた学位論文を元の位置に戻す
2. 納品された学位論文PDFをチェック
3. 学位論文メタデータ作成
4. KURENAIに登録 (約100件)



リポジトリ事業のやりがい

KURENAI が経験してきたこと

* コンテンツ提供者からの感謝と激励

- 紀要, 学位論文と発信のニーズ

* コンテンツの可視性向上

- アクセス経路の拡大
- さまざまな利用のされ方



やりがい – 提供者からの感謝と激励

*コンテンツ提供者から感謝された事例

▶ 紀要

- ・ 現在は廃刊となっている紀要をバックナンバーからすべて電子化・登録後、残部を管理していた研究室の方からお礼のメールをいただいた
- ・ ある学部のゼミ単位で発行している雑誌の登録後、ある機会にアクセス状況をお知らせしたところ、非常に喜んでいただいた
- ・ 名誉教授の方が中心となって活動されている小規模の研究会の紀要を登録したところ、非常に喜んでいただき、その後さまざまなコンテンツをいただいた



やりがい – 提供者からの感謝と激励

* コンテンツ提供者から激励された事例

➤ 学位論文

- 博士論文は世界に提示すべき成果であるはず
- 博士論文はいまだ重い扉で閉ざされている
- これらの成果へもっと容易にアクセスできるならば、他で苦労して到達した成果の存在に気付かないまま、同じことを繰り返すことはなくなるでしょう。
- 首尾よくシステム化されて、主要な検索方法となるように、期待しています。

工学研究科都市環境工学専攻 出村嘉史 助教

図書館機構：京大リポジトリの収録論文数が2万件を突破！

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/bulletin/article.php?storyid=318>



やりがい – 提供者からの感謝と激励

*コンテンツ提供者から激励された事例

➤ 学位論文

- 自分の学位論文をあらゆる人が見やすい場所に置きたい。いろいろな人に参考にして頂きたい。
- 国内外から「どんな内容で学位をとったのか？」という問い合わせが多く、その人たちに見ていただくためにWebアドレスを連絡するだけで、多くの人に見ていただけます。
- このシステムに登録された私のファイルを使わないと、他社、取引先、共同研究先等ともコミュニケーションがとれないほど、大切な位置づけになっております。
- 是非、本システムがもっともっと多くの情報を含むシステムになって、多くの人が活用できるようになりますことを、願っています。

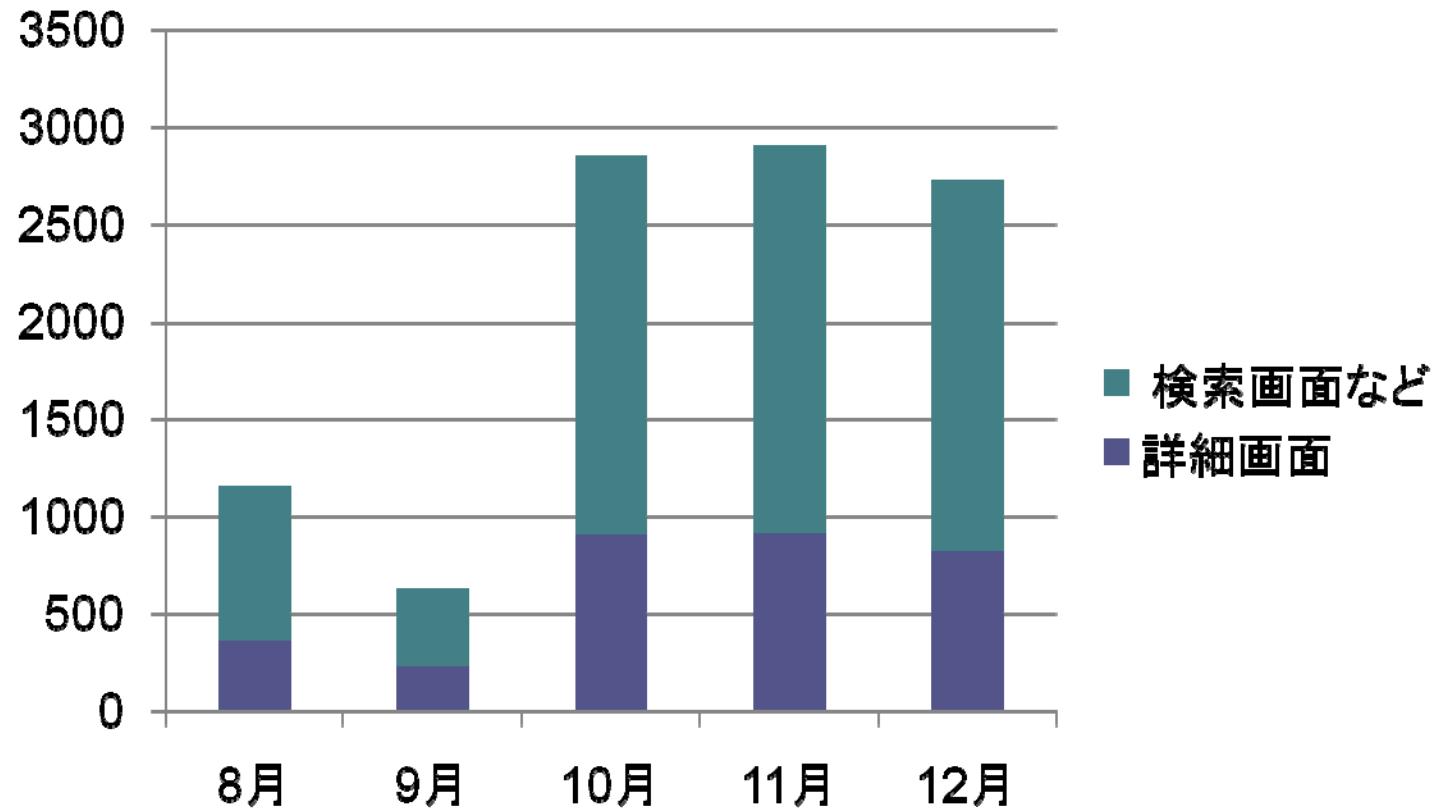
図書館機構 : KURENAI特別インタビュー:企業研究者が京大リポジトリに学位論文を登録するわけ

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/bulletin/article.php?storyid=411>



やりがい – コンテンツの可視性向上

* CiNiiからKURENAIへ – アクセス経路拡大





やりがい – コンテンツの可視性向上

* ブログや質問応答サイトからの利用

➤ 教えて! goo <http://oshiete.goo.ne.jp/>

- 「日本産の食料品が高い理由について」: 1件
- 「氷について」: 1件
- 「**彼女の親友が空想の人間でした**」: 164件
 - 「良回答」に選ばれた回答者が、紹介文献の一つに下の KURENAI掲載論文をあげる
 - 山口智.青年期における「想像上の仲間」に関する一考察 : 語りと体験様式から. 京都大学大学院教育学研究科紀要. 2007, vol. 53, p. 111–123. <http://hdl.handle.net/2433/43995>

佐藤 翔「リポジトリのこんな使われ方、あんな使われ方」DRF4, 2008-11-27

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drft/index.php?plugin=attach&refer=DRF4&openfile=3-1sato.pdf>



やりがい – コンテンツの可視性向上

* ZSプロジェクト

- 目的：機関リポジトリへのアクセスと被引用数の関係(機関リポジトリによるオープンアクセスの効果)を明らかにすること
- 日本動物学会”Zoological Science”誌の被引用数とリポジトリでの利用の関係を分析する
- 分析対象とするリポジトリ：
北海道大学(HUSCAP), 京都大学(KURENAI)
 - 科学研究費補助金(基盤研究C)「機関リポジトリへの登録が学術文献流通に及ぼす効果についての定量的分析」
 - CSI委託事業(領域2)「機関リポジトリへの登録が学術文献流通に対して及ぼす効果についての定量的解析のための文献蓄積及びデータ整理」



今後の課題

* コンテンツ

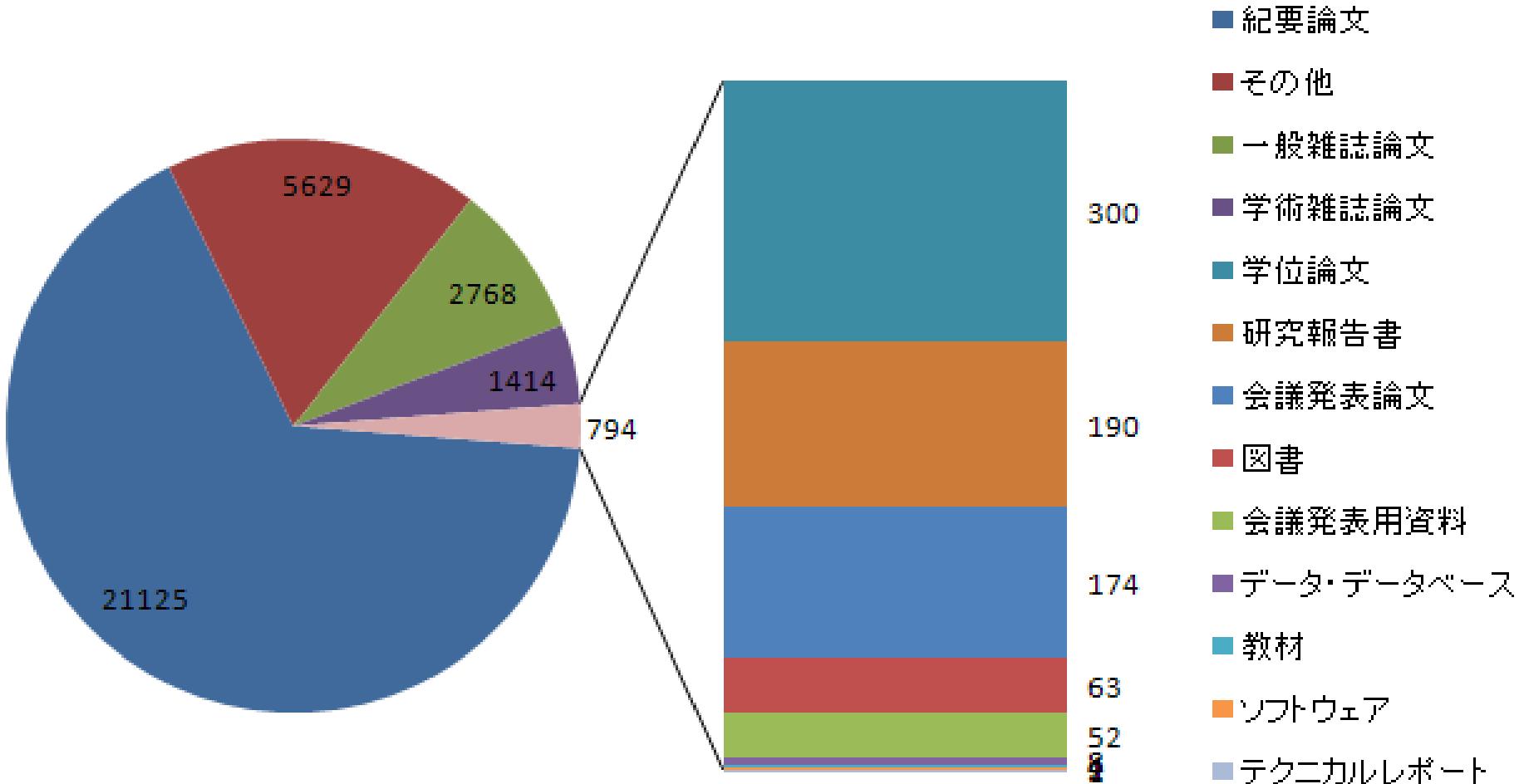
- 学位論文の制度化
- 学術雑誌掲載論文の収集

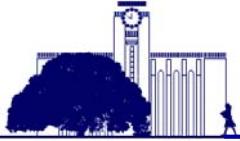
* システム

- サーバの寿命
- 技術力不足



今後の課題 - コンテンツ内訳





ご静聴どうもありがとうございました!

<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

